

未利用の伝統的建造物を試験的に活用した新たなまちづくり方策の検討 ～「さわらぼ」の活用事例～（1/2）

参考資料3

平成26年度に東京大学都市デザイン研究室の学生と地元佐原高校の生徒が協働し、「生活者と来街者の交流機会」と「回遊性向上」の観点から有効なまちづくりの方策を検討するため、未利用となっていた伝統的な建物を拠点とし、さまざまな活動を行う。

常設展示

1. 記憶アーカイブ

さわらぼへの来訪者を対象に、1970年代の地図を見ながらかつての佐原の姿や思い出を語りあう。

→観光客や地域住民が集うことで滞在時間やリピーターの増加。両者のコミュニケーションの場として機能。



2. 誰でも写真展

佐原の町並みには写真を撮りに来た来訪者が多いという点に着目し、撮った写真をさわらぼで印刷し展示。

→撮影者同士の展示・対話の場としての役割。観光客のあまり訪れない路地裏等の写真を展示したことで、写真を見た人が実際に訪れるようになった（回遊性の向上）。



3. 佐原の古地図展示

1970年代、1980年代、2000年代の地図を展示し、佐原のまちの変遷を追って確認する。

→記憶アーカイブと連動し、観光客や年数の浅い住民と古くからの住民との交流を図る手段として機能。



その他、佐原中心部の模型展示、佐原で行った過去の研究成果の展示

高校生が主体となった活動

1. 佐原の路地ツアー

高校生が自ら調べた街の歴史を観光客に解説。ツアーコースは定番の観光スポットではなく路地を巡るという佐原のディープな部分に絞った観光案内を展開。

2. 部活動の活動場所

普段高校で活動している各部活が、活動・発表の場をさわらぼに移して活動。
発表・活動した部：将棋部、演劇部、音楽部、写真部

その他、佐原高校文化祭との連動企画（例年生徒以外は見ることができない文化祭オープニングムービーの上映やクイズラリー）、野球部への応援メッセージ募集等

普段あまり関わることのない地域住民や来街者と交流



佐原の町並みはただの通学路（通過点）から、街に対する興味・関心が高まり、新たな視点や知識を獲得する場（居場所）への意識の変化。

